

垂れ枝の中玉ミニカンづくり 下

長崎県時津町・吉川正則さん

垂れ枝を毎年出させる3つの管理

1月号で紹介した「吉川式せん定」は、樹勢の暴れやすい高糖系ミカンから中玉の果実を毎年とるための技術だ。チエンソーで亜主枝上の立ち枝や邪魔な横枝をばっさり切ると、樹の内側まで光が入り、大玉が成るような強くて太い芽ではなく、実が成ると垂れるような軟らかい芽が出る。垂れた枝には大玉ではなく、市場に求められるM~Lサイズのミカンが成るのだ。

この軟らかい芽をたくさん出させて隔年結果をさせないためには、せん定に加えて欠かすことができない作業が

三つある。有葉花摘蓄と、大玉摘果、そして夏秋梢整理だ。

5月 有葉花摘蓄

有葉花は大玉になりやすい

今年出た新梢の先端に、葉と一緒につくのが有葉花だ。葉が多く、養分を果実に送るので、直花よりも大きくなりやすい。有葉花は枝の勢いが強いところに出やすいので、そのまま成らせたら3~4しになってしまふ。そこ

るたい」と吉川さんは徹底している。

9月 大玉摘果

大玉が多くて隔年結果

大玉摘果は吉川さんが10年前に思いついた方法だ。それまでは農協の指導どおりに小玉やキズ果を摘果し、着果負担をかけて糖度を上げるために3~4L果を収穫直前まで成らせて樹上選

りで作っていた。そのため、市場が求めるミカンの85%がし~2L。市場が求めるサイズより一回り大きくなってしまふ。さらに着果負担が強すぎて、翌年には収量が落ち隔年結果を引き起こしていた。

「大玉の果実は養分の消費が多く、樹に負担がかかりすぎて隔年結果の原因になるうえ、金にならん。このやり方ではM~Lをつくるのはムリたい」

5cm以上の果実を摘果

*5月の摘蓄後に出てきてしまった有葉果であることが多い

収穫期に3L以上になるミカンは、9月下旬の果径が5cm以上。そういう果実があったら、まずその結果枝の葉をすべて摘葉してから実を摘果する。こうすれば、葉の元や大玉を摘果したところから、翌年の春に軟らかい春芽が出てくる。最近は温暖化で秋にも芽が出てしまう可能性が高いので、9月下旬まで待つてから作業するのがいい。

大玉摘果をするときは、樹の外側だけに目が行きがちだが、大事なのは慎

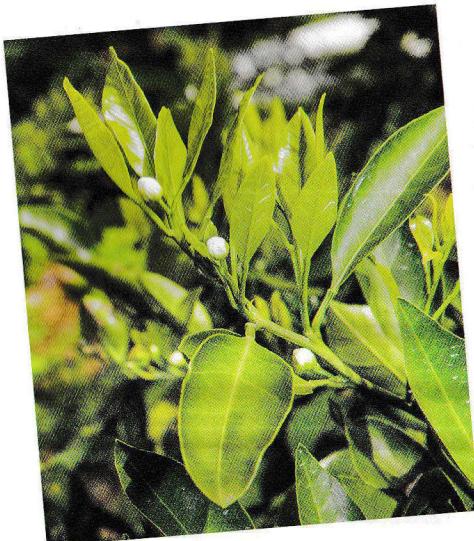


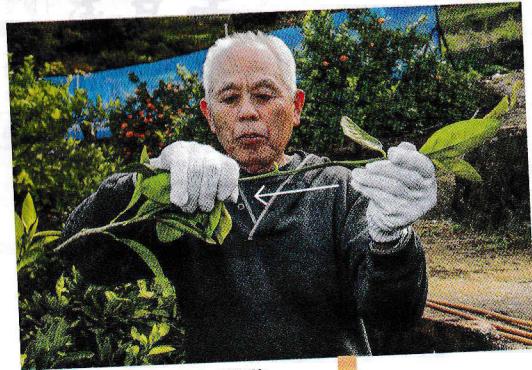
図1 大玉摘果のやり方



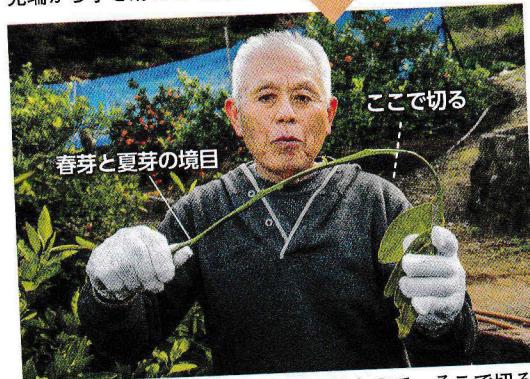
吉川正則さん(74歳)。早生ミカン25a、高糖系の「青島」を現在は自家用程度栽培(とくに断りがない限り赤松富仁撮影)

夏秋梢と春芽の整理

(写真は夏秋梢だが、30cm以上の春芽も同じ。実演のために枝元から切った)



先端から手を滑らせて摘葉



折り曲がったところが養分の切れ目なので、そこで切る

吉川さんの摘果はこの大玉摘果と最後の樹上選果の2回だけ。樹上選果のときは、加工原料にまわすような小玉果もできるだけきちんと落とすようにしている。家まで運んで選果して、また農協に運んで移し替えるなんて作

が上がってくる。

吉川さんの摘果はこの大玉摘果と最後の樹上選果の2回だけ。樹上選果のときは、加工原料にまわすような小玉果もできるだけきちんと落とすようにしている。家まで運んで選果して、また農協に運んで移し替えるなんて作

につく大玉もしつかり摘果すること。また、小玉とキズ果は摘果しないのもポイントだ。あえて残すことでちょうどいい着果負担になり、ミカンの糖度が上がってくる。

吉川さんの摘果はこの大玉摘果と最

後の樹上選果の2回だけ。樹上選果の

ときは、加工原料にまわすような小

玉果もできるだけきちんと落とすよう

にしている。家まで運んで選果して、

また農協に運んで移し替えるなんて作

業をやつていたら労力的に赤字になるからだ。「家内に言つてやつたよ、俺の身体は原料ミカンばとるほど安くないって」

11月 夏秋梢と春芽の整理

養分の切れ目で切る

収穫前行なうのが、夏秋梢整理と強い春芽の整理。夏秋梢は春芽から夏芽や秋芽が伸びた枝なので、栄養生長

が減っていく。先端付近で折り曲がるところは、養分が少ない弱い部分なので「養分の切れ目」。ここで切れば先端が伸び返すことはまずない。春芽と夏芽の境目などの枝元近くで切つてしまふと、そこには養分がたっぷりあるので、また強い芽が出てしまうのだ。

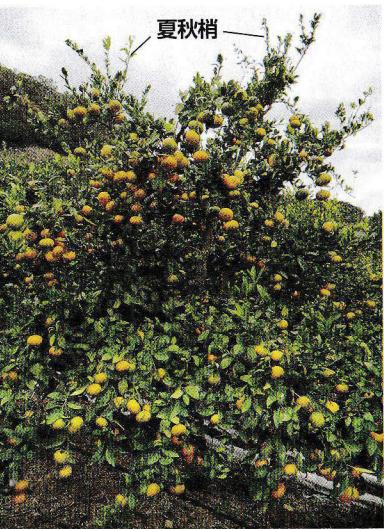
夏秋梢整理は以前から農協に指導さ

れていたことで、吉川さんはその効果を感じていた。そこで30cm以上伸びた強すぎる春芽にもこれを応用しようと考えたのだ。強すぎる春芽を残しておこうと、翌年大玉のミカンが成つてしまふ。だから、夏秋梢と同様に摘葉して折り曲げ、切り返している。

すべての夏秋梢や強すぎる春芽を整

理するのは大変そうだが、吉川さんの樹の夏秋梢はかなり少ないと。吉川式せん定と三つの作業を続けると、樹勢がだんだん落ちていていく。だから、栄養生長に傾いた夏秋梢が減つていくのだ。

吉川さんは高糖系だけでなく早生ミカンにも吉川式せん定を応用している。まだまだ進化は続きそうだ。

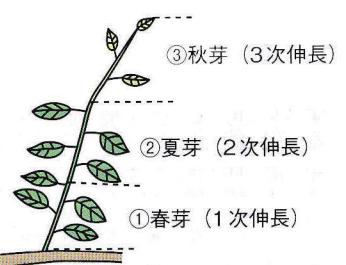


11月の収穫前の樹姿。吉川さんの樹ではないが、夏秋梢が勢いよく出ている（編）



11月の枝の様子

図2 ミカンの枝の伸び方



②以上の芽が伸びた場合、夏秋梢と呼ばれる。樹勢が強い樹ほど夏秋梢が発生し隔年結果につながり、大玉もできやすい

Mリンカリン
+・米ヌカ
+過リン酸石灰
+塩化カリ
上記の材料と混合し
発酵リン酸肥料を作る
酵素微生物資材です!
着果・結実促進
着色・糖度向上
秀品率向上

作り方動画

株式会社 三づホ
名古屋市昭和区山花町64-1 TEL:052(763)4171 http://www.mizuhoto